

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和3年度第1回愛川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会		
事務局 (担当課)		総務部 企画政策課 内線(3233)		
開催日時		令和4年2月22日(火) 午後1時30分～午後3時00分		
開催場所		愛川町役場2階201会議室		
出席者	委員	11人 (別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	5人 (町長、総務部長、企画政策課長ほか2人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	傍聴者数	0人
非公開・一部公開の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 委嘱状交付 3 町長あいさつ 4 愛川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会規則について 5 委員長及び副委員長の選出について 6 委員長あいさつ 7 議 題 第2期愛川町まち・ひと・しごと創生総合戦略令和2年度効果 検証報告書(案)について 8 閉会		

# 審 議 経 過

( 1 / 8 )

※審議の要旨は次のとおり (○は委員の発言、●は事務局の発言)

次第1 開 会

次第2 委嘱状交付

次第3 町長あいさつ

次第4 愛川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会規則について

次第5 委員長及び副委員長の選出について

次第6 委員長あいさつ

次第7 議 題

(1) 第2期愛川町まち・ひと・しごと創生総合戦略令和2年度効果検証報告書(案)について

●(資料2に基づき説明)

○(委員長) ふるさと納税の返礼品について、あいかわブランドのパフレットを見ると食品が多く見受けられる。最近では体験型の返礼品もでてきているので、今後検討していく際には、物だけではなく、イベントやツアーなども含めて考えていただきたい。例えば、ドイツのクラインガルテンのような市民農園を作って農体験などを盛り込んでいいかもしれない。

●ふるさと納税の返礼品はあいかわブランドを中心としているが、寄付額よりも流出額の方が多い状況であるため、新規商品の開拓なども行っている。体験型の返礼品については、宮ヶ瀬ダム周辺振興財団と連携した宮ヶ瀬ダム周遊チケットなどを用意してきたが、今後も宮ヶ瀬ダムのナイト放流など、楽しんでいただけるような体験型返礼品を展開していきたいと考えている。

## 審 議 経 過

( 2 / 8 )

○（委員長）ふるさと納税はプラスの面だけではなく、マイナスの面もあるが、制度がある以上、返礼品に力を入れてもらわなければならないので、新たな魅力ある返礼品を考えていただきたい。

○（委員 A）ふるさと納税の返礼品について、あいかわブランドを中心に選んでいるとのことだが、選定方法はどのようになっているのか。

●町では平成 28 年度にふるさと納税を導入したが、その際にあいかわブランド認定品を販売する事業者のうち、本制度にご協力いただける事業者の商品を返礼品として設定させていただいた。その後も各事業者と調整を行っており、返礼品の数は増えてきている。

○（委員 A）返礼品は事業者へ募集をかけているのか、或いは町からの声かけなのか。

●返礼品に対する国の基準が厳しいため、広く募集してしまうと基準に沿わずお断りせざるを得ないケースが多数想定されるため、今のところ募集はしていない。多方面にアンテナを張って情報収集を行い、人気が出そうな商品などがあつた際には事業者へお声がけをさせていただいている状況である。

○（委員 B）子育て支援センターの利用者数の達成率が 28 パーセントと厳しい数字である。コロナ禍ということは理解しているが、子育ては重要な施策であるため、利用が伸びるよう頑張ってください。子育て世代はコロナ禍で不安や心配事を抱えており、相談などが出来ない状況にあることも考えられるので、そうした方を救うために引き続き利用が増えるよう取り組んでいただきたい。

●令和 2 年度は緊急事態宣言の発出や、予約制の利用としたことなどが数字に表れている。電話による相談は常時受け付けているほか、ラインによる相談も新たに始めるなど、来所し

## 審 議 経 過

( 3 / 8 )

なくても相談できる取り組みを行っている。

○(委員長) 相談については、来所だけではなく広く媒体を活用いただきたい。相談者がいつでも相談できるような体制づくりも大切である。

○(委員長) 相談に関連しているが、三世代同居支援については非常に良い制度だと感じている。子どもにとっては身内から色々なことが学べるし、お父さんお母さんも子育ての先輩から学べることもある。町に相談しなくても、自分のところで相談できる環境が作られるため、非常に望ましい制度である。

○(委員C) 町の広報紙やタウンニュース、愛川時間などに自治会に加入しましょうという記事がある。町で提供したものだと聞いたが、町民に見える場所、いつでも取れる場所でPRがなされている。コロナ禍において、各行政区では様々な事業を中止とするなど、人と人の接触を避け、感染を広げない努力を重ねている。イベントの代替事業として、田代区では、国登録有形文化財である平山橋のライトアップを行ったが、事前に町の広報やタウンニュースで紹介いただいたところ、横浜や相模原から来た方が、愛川町のホームページを見て来たと話すと、インターネットから情報を得て来た方がたくさんいらした。紙媒体も大切だが町ホームページなどを通じたPRも大切であるし、南足柄市がアサヒビールをふるさと納税の返礼品とすることで10億円近くのお金が入ってきたということを考えたときに、色々なPRを通して、愛川ブランドがさらに盛り上がっていくようにする努力が必要なのではと考える。

○(委員長) PRは本当に大切で、町の広報紙やタウンニュースなど色々な媒体がある中で、いくらやってもやりすぎということはない。引き続き努力していただきたい。

## 審 議 経 過

( 4 / 8 )

○(委員長) 創業支援について質問があったが、情報通信技術など専門スキルを活用した起業について今後セミナーなどを進められるとあるが、愛川町といえば農業・林業であるため、他の地域で行われている情報通信技術の取り組みだけでなく、農業の加工品など6次産業化の支援とリンクした創業支援に繋げていただきたい。

○(委員D) 田んぼについては愛ちゃん米が愛川ブランドとして認定されているが、畑の作物でこれが愛川産というのがない状態である。愛川町といえばこの野菜というものがひとつでもあれば新規就農を支えられるのではないかと感じる。また、キャンパーの方がたくさん町に見えらるが、町のPRに繋がらないかを感じている。町のPRの看板を建てたり愛川ブランドのチラシを配るなどすれば、愛川町のキャンプ以外の魅力に気付いてもらえるのではないかとと思う。シルバー人材センターでも清掃をしていると聞くし、町の負担にするだけではなく、お互いにメリットがあるものとなれば良い。

○(委員C) 今の話に関連して、JAあつぎがスーパーやコンビニに行くことが出来ない高齢者のために、コミュニティバスや移動販売車の運行を行っている。愛川町に来るキャンパーの皆さんにも愛川町の農産物等を売る移動販売車を運行してはどうかと思う。

○(委員長) 買い物に困っている方にとって農協の地域活動は他のところでも行われており、栃木県佐野市でも農協の車が農産物を販売するなど、地域の方々に役立っている。こういった取組みは官民連携が大切になってくるわけで、全て役所がやるといった時代ではないので、民間の取組みを活かした施策展開も大切になるかと思うが、事務局の考えはいかがか。

●まず、買い物支援については、以前から事業者に提案はしているが、採算が合わないなどの理由でなかなか参画いただけない現状である。過去にも町内のスーパーを回って移動販売

## 審 議 経 過

( 5 / 8 )

車の提案をしたほか、コンビニに商品の宅配を提案するなど、働きかけをしてきたところだが、町の人口規模からいうとなかなか商圈に見合った事業展開が出来ないというのが実情である。町としてもこのままではいけないので、来年度に向けて高齢者の買い物支援方策を検討している。また、先ほど委員から町の地場産品について質問があったが、これまで農協へ地場産品の開発などをお願いしてきた経緯がある。

○(委員E) 先ほど河川の関係の話があったが、キッチンカーでの販売だけと言ってしまってよろしいのか。田代の河川敷に来ているキャンプの方をいかに町に取り込むかという中で、ゆくゆくはあそこで愛川ブランドの商品を売る店舗みたいなものを作っていきたいという計画もあるようで、今年度事業でやるというような話も聞いている。また、中津川のキャンパー達は世間一般で言うキャンパーより意識の高い方々だそうで、数十年前はごみの放置がとても多く、特に愛川橋のあたりは山のようになっていたが、最近は日本単独野営協会という何万人もメンバーがいるキャンプ愛好家の方々が自主的に草木を刈ったり河川整備をするなどの活動を行っている。その日本単独野営協会と町とが共同で中津川河川敷の清掃を行うなど、町とキャンパーの繋がりが全くないというわけではないので、そこでまた連携を図るなど、町の方でも取組みを加速させて、よりよい形に出来たらいいなと思っている。

○(委員長) それだけ意識の高い人が来ているのであれば、そういった方々の意見を聞いてみるというのもこれから大切な取り組みかなと思うが、事務局いかがか。

●中津川を中心に、直接車で乗り入れることが出来る河川敷が町には5箇所あるが、週末などは河川敷いっぱいキャンパーが来ている状況である。こうした中、昨年10月の緊急事態宣言解除後に、河川敷を訪れる皆様に楽しんでいただけるよう、町職員親睦会と日本単独

## 審 議 経 過

( 6 / 8 )

野営協会の計180人で草刈りや清掃を行った。また、河川に来られる方も利用している田代運動公園のトイレには環境美化意識の醸成等を目的に募金箱を設置しており、年間20万円程度、4カ年で80万円ほど集まるなど実績があるため今後も新たな募金箱の整備を検討している。また、先ほど委員から紹介のあったキッチンカーの誘致については、2年前からキッチンカー協会と話を詰めており、いざ始めようとしたところでコロナ禍となってしまった。コロナ収束後、試行的にキッチンカーを誘致して公園や河川利用者に利用していただきニーズを把握した後に、最終的には売店を設置し、あいかわブランドの販路にしていきたいと考えている。

○(委員E)先ほど話のあった新規就農の件のほか、起業の関係のKPI値は順調だということだが、起業した会社が継続して事業を展開していける支援はあるのか。起業は支援するがその先は支援しないということであると、個人事業主がこのコロナ禍で事業を継続していくのは大変ではないかと思う。

●起業については、例えば空き家を改修したらその経費を助成したりなど制度を設けているが、その後の事業継続が図られるような支援は今後考えてまいりたい。また、先ほど新規就農について委員からもお話があったが、愛川町の農業は小規模な農地や荒廃農地が点在しているため、それらを集約して生産性のある農地にしていくという課題がある。町ではこれまでに峰の原という広大な農地にハウス栽培への創業支援ということで、地権者の調整や道路の舗装など創業のしやすい環境づくりに努めてきた。事業継続が出来るような支援というのでも今後考えてまいりたい。

○(委員長)事業の継続支援については、金銭的な面だけではなく、それ以外のバックアッ

## 審 議 経 過

( 7 / 8 )

プも必要になってくるかと思われるので、それらを含めた継続支援を是非とも検討いただきたい。

○(委員C) 区長会の代表としてシルバー人材センターの理事をしているが、シルバー人材センターの収益として上がってくる70パーセントが、工業団地周辺の企業の皆さんから頂いた仕事である。また、スーパーアルプスやいなげやなどからも商品の陳列など、ユニフォームを着ていないので分からないが、シルバー人材センターから派遣がされているということをご皆さんに知っていただきたい。そういった仕事はこれからも大切にしていきたいといけなし、工業団地の企業の方々にも是非お年寄りが就業する場を与えていただきたいと思う。

○(委員長) 私もよく授業などで言っているが、60歳で定年だがそれ以降も元気な方はたくさんいるので、そういったアクティブシニアの方々といかに社会を作っていくのか、コミュニティを作っていくのが非常に大切だと思う。町だけでやるのではなく、シルバー人材センターに登録されている方々と一緒になって行政も活性化させていただければと思う。

○(委員A) 愛川町には中央養鶏や養豚場などあるが、バイオマス発電というのは町として考えているか。

●地方では、ローカル10,000プロジェクトということで民間事業者が行っているものがほとんどである。自治体が主体となって第3セクターを作ったりしているところもあり、以前は町でも堆肥や食物残渣を使ってバイオマス発電をしたいという声があったが、今はそういった申し出はなく、代わりに太陽光発電など再生可能エネルギーが主となっている。町が今後考えていくのはカーボンニュートラルへの取組みということで、温室効果ガスの発生が少ないエネルギーに転換するため、今年の3月から役場庁舎の電力を二酸化炭素の排出が少ない



# 審 議 経 過

( 8 / 8 )

電力事業者に切り替える予定である。また、たくさんの灯油を使ってご遺体を火葬している  
愛川聖苑についても、例えばカーボンフリーの燃料である天然ガスを使用出来るかなど、現  
在、事業者と共同して研究しているところである。

次第8 閉 会

会長(委員長)  
署名欄



令和3年度第1回愛川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員名簿

(令和4年2月22日(火)開催)

(敬称略)

選出区分	団体名等	氏名	出欠	
公募による町民等		穂本 裕幸	×	
		石垣 春美	○	
学識経験を有する者	高崎経済大学 地域政策学部 教授	岩崎 忠	○	委員長
教育関係者	愛川町教育委員会 教育委員	篠崎 美和	○	
関係団体等の代表者	神奈川県内陸工業団地協同組合 専務理事	柿島 憲一	○	
	愛甲商工会 会長	中村 美好	○	
	県央愛川農業協同組合 理事	花上 美智子	○	
	東日本電信電話株式会社 神奈川西支店 県央営業支店長	深澤 明央	×	
	神奈川中央交通株式会社 運輸計画部 計画担当課長	佐藤 勝太	○	
	株式会社横浜銀行 愛川支店 支店長	深野 俊介	×	
	相愛信用組合 専務理事	中島 満	○	
	厚木愛甲地域連合 マキノ労働組合書記長	加藤 豊和	×	
	株式会社タウンニュース社 県央支社 厚木・愛川・清川編集室 副編集長	富永 潔	○	
町区長会 会長	古座野 茂夫	○	副委員長	
関係行政機関の職員	神奈川県 県央地域県政総合センター 企画調整部長	石井 幸介	○	